

平成24年度第1回松山地域協議会会議録

日 時 平成24年5月24日(木) 午後1時30分～午後3時40分

場 所 松嶺コミュニティセンター 講堂

出席委員 15名

1号委員 齋藤 勝 志田 節子 佐藤 旭 今田 充代 阿部 茂
丸山 慶子 池田 重悦 阿部 春一 小田 和夫 石川 信一
遠藤 俊三 村山 安子 佐藤 修

2号委員 小野 與一

3号委員 日野 健吾

欠席委員 0名

酒田市出席者

酒田市学区改編推進室長 川島 真 同調整主任 丸藤 真也

松山総合支所長 大場 昭一 地域振興課長 秋葉 弘毅 建設産業課長 大淵 洋

地域振興課長補佐 後藤 晃 地域振興課調整主任 石川 春市 同 石川 亮一

傍聴者 0名

議事日程

1 開 会

2 あいさつ

3 議事録署名委員の選出

4 職員紹介

5 議 事

(1) 松山中学校と飛鳥中学校の統合について(教育委員会学区改編推進室)

(2) 平成23年度地域協議会市長報告について

(3) 平成24年度支所管内の主な事業について

(4) その他

6 そ の 他

7 閉 会

【議 事】

1 開 会・・・地域振興課長

2 あいさつ

【地域協議会会長】

昨年の3月11日に発生した東日本大震災からまもなく1年になります。震災をきつ

かけに全国的に絆が深まり、何事においても、お互いが助け合うことの大切さが広がりました。

また、去年は震災後に、市長へ地域協議会の年間のまとめを報告してきました。みなさんの御協力もあり、来年度は地域の課題について前進がみられているようです。

本日の議題にも取り上げられている項目もあるようですので、ぜひ率直な意見を願います。

3 議事録署名委員の選出

地域振興課長 申し合わせ事項により、今回は池田重悦委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員 異議なし

4 協 議

(1) 松山中学校と飛鳥中学校の統合について

学区改編推進室の川島室長が資料に基づき、説明する。

川島室長 松山中学校と飛鳥中学校の統合につきまして、ご説明申し上げます。

資料にある教育委員会からの「お知らせ」は4月中旬に出されていますので、みなさんも既にご覧になったことと思います。また、地区のいろいろな会合でも説明しておりますので、本日は、主に現在の取組状況について説明いたします。

今まで統合の時期は、平成26年か27年ということで説明してきましたが、このたびの3月定例議会で、統合中学校の設置を現在の飛鳥中学校の場所に平成26年4月1日に開校することが正式に決定いたしました。

明日25日には第1回統合準備委員会を平田農村環境改善センターで開催し、役員構成、規約等を決定することにしております。

今後は飛鳥中学校の校舎を現在の防災基準に合うように耐震改修工事を行います。それからトイレを全て洋式にし、フローリングを木質に変えます。

体育館は新しく建設する予定であります。説明会において、2年間工事現場の傍で勉強させるのかという意見がありましたが、現在では以前と違い、工事現場を防音作りにし、なるべく音が外に漏れないようになっています。例えば以前は、ガンガンと大きな音を出して杭を打っていましたが、現在はドリルで掘り進むという方法を使うので、以前のような音はできません。

しかし、ある程度の騒音は我慢していただくことと、校舎の中をローテーションしながらの授業になることに、ご理解とご協力をいただくこととなります。

それから、新しい学校に行った時に、生徒間の意思疎通はだいじょうぶかという話がありました。これはほかの学校の前例を見ますと、いろいろな行事や授業と一緒に開催したり、ちょっとしたイベントを交換しながら少しずつ進めていっている

ようです。教育目標、教育の重点課題もお互いに擦りあわせをし、より良いものにしていくということで教職員の方々からも努力していただくことになっております。

明日の統合準備委員会では、委員として両地区から同数の、合わせて58名の方々から出席していただくこととなります。地域協議会の会長はじめ地元の自治会、コミ振関係、PTA、同窓会関係という方々となります。

統合関係で一番大変なことは校名決定です。校名については、58名の中で各部会をつくりまして、その校名検討部会で校名を考えていただく形となります。以前の反省を生かし、話し合いをオープンにしていこうと思います。

小野委員 地域の意見の収集が足りないということで説明会を開催しているようですが、昨年後半になってからは、きめ細かい情報発信があり良かった。

統合することについては、 $1+1=2$ 以上になるように目標を掲げて、頑張ってもらいたい。過去の教訓を生かし、素晴らしい学校を作るという気持ちを持って、これからも随時情報を発信しながら進めていただきたい。

小田委員 改修の内容で安全面などの説明がありましたが、中身がよくわかりません。里仁館の建物より古いので、改修作業が大規模になり学校現場に大変な負担がかかるのではないかと。十分調査しながら工事を進めていく必要があるのではないかと。

統合後の地域行事への生徒の参加についてですが、各地域にはそれぞれ特別な行事があります。例えば、松山地区であれば5月1日に行われる武者行列や6月の地区運動会ですが、そういった行事へは支障のない限り参加してほしい。

また、飛鳥中では民間企業と一緒に飛鳥ブランドを立ち上げました。今後も地域の特色を踏まえた活動をしていただくようお願いします。

川島室長 改修については、地元からも心配だという声がありました。設計に入る前の段階で教職員や保護者の意見を聞きながら生徒にとって一番安全で効率のいい手立てをとる話し合いを行うことになっています。

行事への参加については重点的に取り組んでいくことになっています。決して、将来の後継者を絶やすことのないように配慮が必要だと思っております。

日野委員 準備委員会ではほとんどの案を決めて、教育委員会と議会にかけて決定という順序になるのですか。

川島室長 簡単に申し上げますとそのとおりです。

日野委員 校名についてはそれぞれの思いがあると思いますが、アンケートや応募方式などをやる予定はありますか。

川島室長 今までのやり方を参考にすると、何種類か方法があります。一つは統合準備委員の各委員が自分で考えた案や他から聞いてきた案などを持ち寄る方法。もう一つは地域に公募する方法等です。どの方法にするかは統合準備委員会の検討部会で決めます。

遠藤委員 飛鳥中野球部の1年生の人数が足りなくて、試合に出られないことになってしま
う。統合が決まれば松山中と一緒に大会に出られることになるという事だったので、
ご配慮していただきたい。

川島室長 統合は平成26年4月1日となっています。学校同士の交流は事前に行っていく
予定ですので、一緒に練習や大会に参加できるのではないかと思います。

石川会長 4月に光陵高校が開校しましたが、野球はずいぶん強いようで、新聞にも出るよ
うになっていますね。それから、小学校のバスケットは各小学校では人数が少ない
ため、内郷小、松山小、地見興屋小と一緒にやっているそうです。学校を統合する
前にこういった交流をしていくとスムーズにいくのではないかなと思います。

日野委員 要望ですが、新しい学校になった場合の校歌について、日本人らしく日本の心を
うたうようなもので学校目標になるような、「進歩」「向上」「誇り」や「鳥海山」「最
上川」「庄内平野」などを入れてもらいたい。また、将来地元に戻ってきたときに
酒田を表すような節もあった方がいいのではないかと思います。よろしく願いま
す。

今田委員 スクールバスは、何台くらいになる予定ですか。

川島室長 全体で4台位になる予定です。ただ、全員がバスに乗れるわけではありません。
先程、申し忘れましたが、統合段階で3クラス増えることにより教室が足りなく
なりますので、その分は増築します。

今田委員 バスに乗り遅れたときに、家族が送迎時に利用する駐車場が狭いように思うので
すがどうなのでしょう。

川島室長 実は、それが大きな課題となっていて、校舎のレイアウトに苦勞しています。な
ぜかと言いますと、生徒数が増えるので、体育館を大きくする必要があります。体
育館は空いている場所につくることになるので駐車場として利用できる敷地が減
ることになります。保護者の人数も増えます。

車の出入りの利便性を良くし、きちんと送迎できるスペースを確保するとなると
敷地の庭などの改修の必要があるのかなと思っております。

佐藤（旭） 中学校の統合は、3年も前から地域協議会の話題でありました。その中で説明が
委員 あった通り統合準備委員会を立ち上げている訳ですし、今出た問題を含めて立派に
統合してくれることと思います。ただ、統合準備委員会や教育委員会での話し合い
の中身についても、公開できるものであれば、市民にできる限り情報公開してい
ただければとお願いいたします。

石川委員 ちなみに、バス代はどうなるのですか。

川島室長 このスクールバスは遠距離通学の解消ということですので、無料です。

今ここで、結論的なことは申し上げられませんが、通年バス通学地域と冬期間のみ
バス通学の地区があります。これは距離数だけではなく、道路状況などを考慮して決
めることとなります。

スクールバスの関係は、実地調査や冬期間の試験走行など専門的なことが必要とな

りますので、準備委員会とは別に決めていくことになります。

石川会長 ほかに無いようですので、中学校の統合については終了いたします。

(2) 平成23年度地域協議会市長報告について

秋葉課長 3月26日、本庁第3会議室において、それぞれ各地域の会長から報告になった所です。主に地域で課題となっている部分の報告となっております。市長からはたいへん厳しい意見もありましたが、今後とも地域協議会の皆様にはご研鑽、ご提言をお願いしたいという事でありました。

特に、3地域協議会での合同研修を市長から提案ありましたので、後ほど3支所の担当者が集まり検討したいと思います。その他の項目で提案したいと思います。

石川会長 2ページを見て下さい。気になる部分があります。「松山は地域の協力体制がない。城下町の魅力に一生懸命な人もいれば、独自でおぼこ梅など商品開発をしている人もいる。でも、それぞれの主体がバラバラである。松山観光開発(株)もなくなった。本来ならさんさんが管理だけでなく地域にある自然をいろんな形でビジネスチャンスに繋げれば良かった」という市長の指摘があります。この件は松山げんき創造事業と関係してくる部分もありますので、今後の話題にしたいと思います。

この報告について、何かご意見などがございましたら、発言をお願い致します。

小田委員 2ページもそうですが、5ページを見ると、市長はよく情報収集しているものだなと思いました。商工会の話が載っていますが、他の地域と差がついたことは、我々の努力が足りなかったのかなとも思います。これらの課題を平成24年度には解決できるようにしたいと思います。

インターネットで、各地域協議会の会議録は見ているのですが、市長から直にバシッと言われたのは初めてです。

佐藤(旭) 何かをやろうとすると必ず仕掛け人が必要になってきます。いろいろな会でだれ委員が何をするかが決まらないのが松山地域の問題だと思います。そういった仕掛け人の役割をこの地域協議会が担うようになっているのか、ただ、予算ばかりを論議していくのかがわからないので教えて欲しい。

大場 支所長 地域協議会の設置条例や規則があるのですが、その中で目的などがしっかり定められています。その目的は「地域住民の意見を行政に反映させること。地域住民と行政との連携・協働を推進すること。」そのほかに「地域づくりの予算に関すること。地域全体の振興に係ること。地域コミュニティ組織の育成・強化に関すること。」であり、その目的を果たすために地域協議会があるのだと思います。この目的に沿ってこの地域協議会が進んでいくことができればそれでいいのだと思います。

佐藤(旭) 山寺コミュニティでは多目的運動公園・大ため池・宝蔵寺の裏側一帯の、自然に委員 恵まれた場所を昆虫取りの拠点にしようと、環境税を活用して3年目になりました。

そういった事が、地域づくりのきっかけとなりますので、行政からはお金だけでなくいろいろな情報や協力を提供していただければと思います。そういった面で市とタイアップできるような環境づくりをしてもらおうと、事業もうまく進みます。

石川会長 そのとおりだと思います。地域協議会というのは、それぞれの地域の抱えている課題を協議していい方向に持って行こうというのが大きな役割です。

ここで、いろいろ提案していただいて、協議していくべきだと思います。

小野委員 八幡の産業まつりのことについて載っていますが、私も八幡の産業まつりに出店した経験があります。産業まつりをしていくことは特別なことではないのです。継続することで力がついてきます。

その教訓からいくと、各地区のコミセンでそれぞれやっている事業がありますが、その事業をピックアップし、その中で広げていくもの・各地域で実施するもの・継続していくものなどを選定することです。そして、お互いにやっていることをまとめて、いいところを拡大するというのをすればいいのではないかと思います。それほど、悲観する必要もないし、プラス思考でいくことが大事だと思います。

石川会長 ほかにございませんか。無いようですので、この議題は終了します。

(3) 平成24年度支所管内の主な事業について入りたいと思います。

秋葉課長 資料4について説明。

大淵課長 資料3の道路改良等の推進について説明。

石川会長 ただいま、説明がありましたが、さらにお聞きしたいことや意見がありましたら、発言をお願い致します。

私からの質問ですが、大川渡の農業集落排水施設のところについてですがどういったことをするのですか。

大淵課長 維持管理コストの低減等の理由から、大川渡にある農業集落排水処理施設を南部処理場につなぎ、南部処理場1ヵ所で処理するよう統合を図ります。成興野と柏谷沢の処理施設はこれまでどおりです。

石川会長 現在、公共下水道になっていますが、家庭に集水マスがあっても下水道につなげない家庭は、どの位ありますか。

大淵課長 各家庭で集水マスにつなげなければ、公共下水道に加入していることにはならない訳ですが、松山の場合、80%以上は加入しています。我々もこれから、未加入世帯には、加入のお願いにあがるように考えております。

石川会長 下水道につなげないのは不衛生だと思いますので、行政の方でも頑張ってもらいたいです。ただ、「つなげ」というだけでなく、何故つなげないのか等の意見を聞き、個々に相談しながら進めていってほしいと思います。

小野委員 各地域での事業説明会は今後も続けていくことを要望します。

お陰様で南部地区においても自主防災組織が4月26日に設立しましたので、ご報告いたします。設立にあたっては広野コミセンに研修に行きました。広野では阪神淡路大震災を契機に立ち上げたそうです。

先程の説明の中で、近年多発するゲリラ豪雨などへの対応がなかなか困難な状況のようですので、今後はその辺のところをしっかりとってほしいと思います。

阿部（茂）委員 上堰改修もいいのですが、最近、上堰に泥水のようなものが流れてくることがあります。何故だろうと思っている。また、街中の花壇に花を植えてあるが、その花に水をかけるために上堰から水を汲もうとすると水が流れていない時がある。水を流さない日があるのでしょうか。

石川会長 上堰は大町溝土地改良区の管理になります。農業用水ということで、田んぼに必要な時に流し、必要の無いときは流さないという仕組みになっています。

豪雨の時には泥水が流れ込み、一時的に大量の水で溢れかえることがあります。今回は、そういった事を改修するという事になっています。

大淵課長 大雨になると総光寺沢の法面が崩れたり、林道の土砂崩れが発生します。現在復旧工事に取り掛かっている所もございます。

内郷地区では、山地排水と国道345号からの排水が集まって、雨が降るたびに冠水する地域があります。根本的にどのように流れを作っていくのかを関係機関の専門家と相談しながら、やれる所から早急に進めていく必要があると考えています。

石川会長 ほかに意見も無いようですので、この議題については終了します。

（4）その他

秋葉課長 今年度、八幡・松山・平田の3地域協議会委員の合同研修会を行いたいと考えております。期日・内容につきましては、今後、事務局で検討したいと思います。是非、ご賛同いただきたいと思います。

また、委員の皆様から取り上げて欲しい話題や研修についてご要望・ご意見がありましたら、是非事務局までお寄せ下さい。

日野委員 3地区合同研修の内容やスケジュールはわかりますか。

大場支所長 まだ決まっておりません。6月の後半に3支所の担当が集まり、どのような内容で開催するか打合せをしますので、その時に決まるのではなかとと思います。打合せがその時期ですので、開催はそのあとになります。もし、テーマとか意見があるのであれば、事務局にお寄せいただければと思います。

池田委員 コミュニティビジネスというものは、どういった事を言っているのかを教えてください。

秋葉課長 これまで、行政が行う事業については、市の予算を使い、行政が計画し、みなさん参加してみませんかというやり方が一般的でしたが、コミュニティビジネスでは、参加者からはそれ相当の負担金をいただき、事業を運営していくこととなります。

また、事業を実施する過程においては、なるべく地元の商店や業者が潤う仕組みをつくり、主催者側にも運営資金が残るようにしなくてはなりません。

もちろん、利益を上げながら事業を実施するためには、より多くの人から参加してもらう必要がありますので、事業については魅力ある内容と広範囲なPRが不可欠となります。そのために、いろいろな立場の人が集まり、知恵を出し合うことが重要となってきます。つまり、これまでやってきた事業に、民間の経済活動的な考え方を取り入れたいということでもあります。

目指すところは、この地域の交流人口を増やすために、皆さんから事業に参加していただき、皆さんで実行組織をつくり、アイデアを募りながら事業をやっていたきたいということであり、最終的には、その組織を法人化するところまで持っていければと思います。

そのために、今後、皆さんと一緒に研究を重ね、勉強しながらのスタートとなっています。

池田委員 会費をいただいて事業をやるという事は、今コミセンでやっている事業と同じですね。そこに利益があるかどうかですね。

私が聞きたいのは、市としては、どういう事業を想定しているのか。何をメインとしてやりたいのかをお聞きしたいのです。

大場 支所長 例を申し上げますと、かなり前の話ですが、どこか地方の高齢者のみなさんが山から採取してきた葉っぱを都会で売ったら大変評判がよく、商売として成り立っていること。あるいは、地域の古民家で、おかあさん達が日替わりでごはんを提供するビジネスなどを聞いたことがあります。

松山地区で具体的にどういったものをやろうかということは、今年1年をかけて検討や研修をしていくこととなります。そういったビジネスをやれないかなと思って立ち上げたのが松山げんき創造研究会です。

石川会長 そんなに難しく考えなくてもいいと思います。これから1年間のテーマとして何を選んだ方がいいか、何をしたいかが個々によって違うのですから、個々に地域振興課のほうに話をしておく程度で良いと思います。

丸山委員 皆さん考え方が違う訳ですので、短期間ではなくて十分な時間をいただきたい。それを集約すれば何にかがみえてくるような気がします。今ここで何をしたらいいかと考えても、思い浮かばないので、帰ってじっくり考えた方がいいと思います。

村山委員 県とか国サイドの補助事業でやったような例はないのでしょうか。モデル事業みたいなものの資料があれば、具体的なイメージが湧くと思うのですが。

大場 支所長 いろんな地域紹介が載っているコミュニティビジネスの冊子がありますので、後程お見せします。

地域協議会で、今後何をテーマにしようかという事ですので、コミュニティビジネスに限らず、広く地域の課題について考えていただければと思います。

小田委員 市長報告の中身を見ると、この地域でこんなに頑張っているのに、まだ足りない

ことがたくさんあるということが伺える。この中身で協議していてもいいのではないかと思う。場合によっては、市長を講師にして会を開いてもいいのではないか。ただ、このメンバーでは年配者が多すぎる。その点、松山げんき創造事業研究会はこれからの30代40代の若い人達が地域を引っ張っていく組織になると私なりに解釈していますし、期待もしている。

小野委員 げんき創造事業で会長を引き受けましたが、実は始めるのが遅かったのではないかと考えています。ですが、今より後退することはできないので、みなさんで知恵を出し合って何かしましょうという事で、別に特別なことはないのです。

それには人づくり・地域づくりという観点で感性を磨いていく必要があります。具体的にこの地域でいいものは何かという点でみんなの知恵を出し合う。

ビジネスとしてお金も支払う訳ですし、研究会の規約もあります。こうした中でどれくらいできるか。誰かが、きっかけづくりをしないといけないし、そういうような視点で躊躇しないで走り出そうということです。ご協力いただきたいと思っています。

丸山委員 この松山げんき創造事業というのは、新しく立ち上げる訳ですか。

秋葉課長 すでに立ち上がっております。

丸山委員 立ち上がったとして、会長さんは小野さんですが、他は募集をかけるのですか。

秋葉課長 3月の下旬に広報等で募集をかけました。住民の皆さんからはほとんど反応がありませんでした。会長からはPRの仕方に問題があると言われましたので、方法を変えてPR等に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

今後、皆さんからご提案ありました件につきましては、会長・副会長に相談のうえ提案させていただきますので、何かありましたら事務局にお知らせ下さい。

齋藤 副会長 それでは、ほかにご意見もありませんので、本日の地域協議会はこれで閉じたいと思います。今日のご出席いただき大変ありがとうございました。